TACのHP

JA金沢市TAC活動の取組み

押田 哲男（おしだ てつお）
石川県・JA金沢市　担い手支援室室長

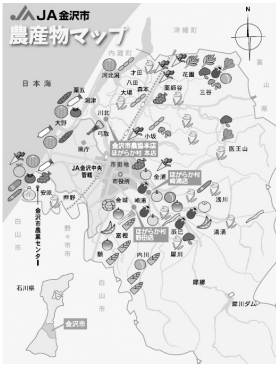
※本稿は2022年11月に行われたTACパワーアップ大会での発表より構成しています

JA金沢市の概要

当JAは、正組合員数6,206名、准組合員数8,117名と准組合員数が上回っており、この傾向は今後も加速する可能性があると考えています。

主な農産物として、金沢の風土を活かして生産され、優れた品質や豊富な生産量をほこる「金沢そだち」の６品目、そして「加賀伝統野菜」の15品目があります。産地は、中山間地、平坦地、河北潟干拓地、砂丘地帯と、農業条件が各々異なっており、様々な要望や地域にある課題など、種々雑多となっています。

そして金沢市は、北陸新幹線が開通したのち、観光地として食の文化にも関心が寄せられるようになりました。JA金沢市は、食の面でも重要な役割を持つことになってきています。



JA金沢市の主産物取扱高と５年後の目標

当JAでは、令和元年度以降、令和５年度を最終目標とした主産物取扱高の計画を策定しています。

まず米部門ですが、集荷数を目標年度に９万俵とし、面積は23ha減少になりますが、反収目標を535kg/10aにあげることで、目標年度には販売金額の13億円を目標としています。

つづいて園芸部門です。作付面積について、目標の令和５年度には、加賀野菜のサツマイモ、たけのこ等の一部を除き、面積は現状維持または微増を目標にしています。そして各品目の販売高ですが、サツマイモをはじめ、大玉スイカや小玉スイカ、なしなど、ほとんどの品目が目標年度を大きく上回っています。理由は、SNSやテレビ放送に加えて、タ

JA 金沢市主産物取扱高と５年後の目標

米部門
※　販売高の単位は百万円

部門	現状（令和３年）	目標（令和５年度）
集荷数	85,207俵	90,000俵
面積	1,823ha	1,800ha
1等米比率	95.3%	90.0%以上
反収	507kg/10a	535kg/10a
販売高	981百万円	1,300百万円

園芸部門　※　販売高の単位は百万円

	品目／項目	現状（令和３年度）		目標（令和５年度）	
		面積	販売高	面積	販売高
加賀野菜	さつまいも	85.6ha	581	83ha	525
	れんこん	49.3ha	333	55.1ha	460
	たけのこ	100ha	105	115ha	100
	太きゅうり	2.9ha	91	3.1ha	100
	源助大根	3.9ha	30	6.2ha	46
金沢そだち	すいか（大玉）	105ha	1,388	110ha	1,200
	だいこん	52.66ha	389	55ha	440
	なし	19ha	252	19ha	180
	トマト	7.11ha	175	8ha	210
	きゅうり	3.8ha	125	3.9ha	120
	小玉すいか	15ha	175	15ha	150

レントの田村淳さんをゲストに招いたオンラインツアーEC「いき物語」などPRが盛んなうえ、販売手法として、作付面積が決まり次第、市場・バイヤーと出荷数量の早期商談を行い、差別化に取り組んでいるからです。

JA 金沢市の TAC 体制

当JAでは、専務直轄の担い手支援室が専任TACとして、県や市の関係機関、営農経済部各課と連携しながら、現場の最前線にあたる、アグリセンターの兼任TAC25名の指導と管理を行っています。

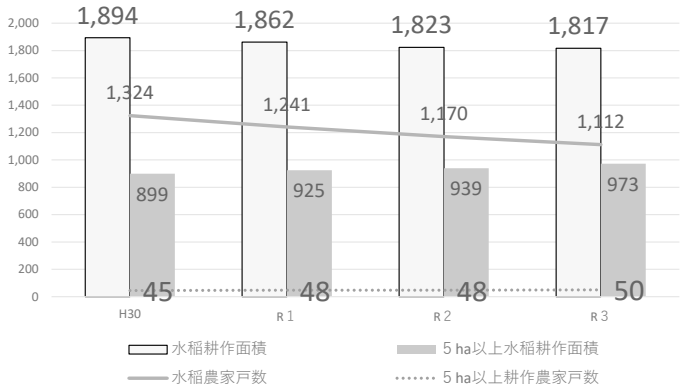
担い手支援室の専任TACの主な業務は、TACシステムによる日報の管理、無料職業紹介や農福連携、次世代総点検による法人組織活動支援や、事業承継のほか、記帳代行による営農経営相談などです。このような活動に取り組んだ結果、担い手からの依頼件数は右肩上がりに増加しています。

兼任TACは、担い手への情報収集を行いながら、専任TACと連携を取り課題対応を行っています。現場の最前線で活動する兼任TAC、そこから毎月630件の担い手の要望を聞き取り、役員を含めた本店各課と毎月検討会を実施することで、より密な連携を実施しています。

この兼任TAC25名は、役割として二つの顔を持ちます。まずはTACの役割として、担い手のニーズを捉えるため、ひと月630件（１人あたり約23件）の担い手を訪問しています。第一優先は、現場の最前線である強みを活かした積極的な訪問と面談です。そのほか、専任TACである担い手支援室と連携を取り満足度の向上を目指しています。

一方で兼任として営農経済渉外の役割も持っています。購買業務の店舗管理および重点品目の獲得を担い、地域の顔として担当地区に貢献しています。

JA 金沢市水稲農家数・作付面積の推移



JA 金沢市の課題

水稲農家件数とその作付け面積です（上図）。農家戸数は年々減少しています。そして、一部の担い手が耕作を引き受けていくため、その担い手の耕作面積は増えてきます。図を見てもわかるように、５ha 以上の農家の耕作面積は年々増えています。このような農家は常に経営収支を考え、農薬や肥料の価格低減、労働力の軽減、または雇用に対する支援など、これまで以上に厳しい支援を求めてきます。気に入らなければすぐに JA 離れにつながる経営体ばかりです。当 JA では、JA を手段の一つとして利用していこうと考えている担い手を「第２次担い手」と位置づけています。

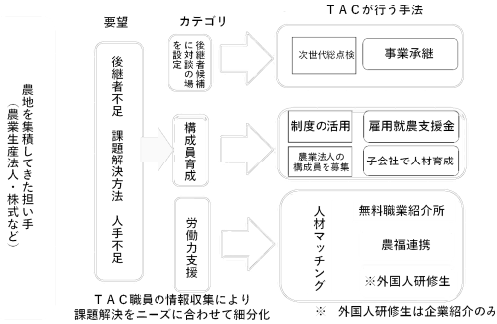
では、第２次担い手に対し満足度をあげていくにはどうすればよいか。TAC 総当たりで情報収集し、各課連携を取って TAC 活動の強化を図り、第２次担い手の課題解決を模索しました。

課題に対する活動内容

当 JA の TAC 訪問件数月630件、そして年間２万1,000件の実績と経験を活かし、集落座談会や生産部会長会議、集落への法人連絡協議会などを通して情報収集や要望を取りまとめました。その結果、①労働力や後継者問題、②農業資材等の価格、③補助・融資の手続き、これらの課題対策を検討していくこととなりました。

⑴　労働力・後継者問題

担い手からの要望を細分化



労働力と言っても、個々の経営体で事情が大きく違います。要望をカテゴリ別に細分化し、課題解決策を模索しました。まずは、後継者候補の対談の場を設定しました。１集落につき２年計画として進行中です。早期に話し合いの場を設け、時間をかけて話し合うことが大切かと思います。

農業者育成として、JA の子会社と農家で、農業経営者候補を育成する研修制度の導入や支援を行っています。将来の地区の農業を担うよう、農業経営、農業技術を育成しています。育成者の年齢は、20代から40代と若手の方が多いです。

労働力支援は、無料職業紹介や農福連携などで労働力確保に努めています。なかでも農福連携は、定植や収穫の忙しい時期に大勢の人数を揃えることができ、必要な時に必要な人数が揃うので費用対効果もよく、農業経営者も毎年継続して雇用しています。リピート率は100％です。

農業者の育成を農業経営体が行っている事例を紹介します。空農地が目立ってきたため、地区の農業者が従業員を雇用して経営している株式会社金沢アグリプライド、そして、高齢化でたけのこの掘り手が減少し、収穫量の減少や放棄竹林が増加したという情報をもとに、無料職業紹介から人材を斡旋し、たけのこ部会の若手部会員の指導のもとで堀手を育成する「たけのこ掘り手塾」を立ち上げました。TAC では、アグリプライドへの経営支援、たけのこ掘り手塾では堀り手の人数を増加させ、たけのこ出荷量の増加と放棄竹林の再生を目指す活動を行っています。

⑵　農業資材の価格問題

当 JA は、第２次担い手を含めて、農業資材の予約率は76％となっています。その原動力となってるのが、『金沢営農ごよみ（水稲・野菜関係の営農指導書兼予約注文書）』と TAC 職員による農業資材の推進です。

まず、本店各部署と勉強会を行い、栽培のポイント、価格低減案や肥料・農薬の使用方法、担い手対策を十分に行ってから、第２次担い手へ

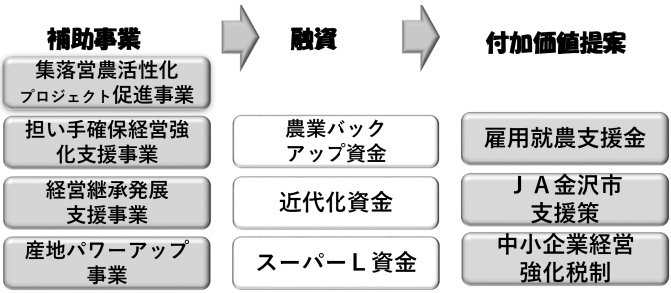
『金沢営農ごよみ』

『金沢営農ごよみ』をもって１件ずつ訪問します。この冊子の発行は、10月上旬で、締め切りは10月25日と、猶予は20日間ほどしかありません。早期予約の取りまとめにより数量を把握し、高い予約率のもと、仕入れ先と有利な価格交渉や倉庫の管理費の節約が可能となり、下がったコストを価格に反映しています。量がまとまるから強気な交渉が可能で、安いから予約がまとまる、win-win の関係となっています。そして、年内12月に購入したものを、翌年９月まで支払いが延長できるため、担い手の経営状況に合わせた購入も可能としています。

⑶　補助・融資の手続き

TAC を始め、多くの関係機関で補助事業の訪問・提案を行っています。１人の担い手に、７、８人で一斉に提案推進をすることで、補助事業から融資の実行、そして付加価値の提案まで、抜けや漏れなく話を進めることができます。補助事業のメニューから選択し、次に条件に合った融資のメニューを選択できます。さらに、担い手から得た情報をもとに、TAC 職員が付加価値をつけた提案しています。なかでも、中小企業強化税制に関しては、農機具の購入により、所得税の減額または一括償却が可能なツールとして手続きを行うことができ、商系からの購入も抑えることができます。そして JA 金沢市の購入実績は、トラクターだけで約6,000万円となりました。

補助・融資メニュー＋JA からの付加価値提案の一例



⑷　そのほかの取組み

大口農家への提案の一つとして、独自の支援策を設けています。JAが要望する取組みを行うと支援金が出るという仕組みで、園芸支援策は約2,750万円、米の支援策は約3,650万円の予算を組んでいます。

⑸　地域の活性化

兼任TACを通して様々な意見や情報をいただき、地域の活性化へとつなげています。例をあげると、コロナ禍のもと、お祭りなどの行事が見送られるようになりましたが、「祭りがあった方がいい」という意見をいただき、本店経済課とTACの提案もと、「すいか祭りドライブスルー」開催しました。車から降りることなくスイカを買うことができます。また、主に中山間地からの市街地のスーパーなどに行くのが大変だという要望で、移動購買車を導入し、好評をいただいています。TACから出た意見を、本店で様々な調査を経て実施するに至りました。そのほか、サツマイモのオーナー制度、農産物の出荷規格外の加工品や体験農園など、様々な企画がTACを通して提案・実行されています。

このように、TACと担い手が懸け橋となって様々な要望や課題を収集し、地区の顔となるのがJA金沢市のTACだと思っています。TACの活動なしに担い手の満足度向上はないと考えています。

すいか祭りドライブスルー

今後の課題

農家の抱える課題はますます増えていくと思います。それを解決できるのは、担い手の情報収集を行うことができるTACと、総合事業という最強の武器を持っているJAだと思っています。TACの役割をもう一度振り返ってみてください。その地区の主役は間違いなくあなただと思ってます。

全国のTACのみなさま、持続可能な農業を目指しましょう。その断固たる決意が必要だと思います。何が何でもやる。与えられた課題は時間をかけてでも解決してほしいです。